

日本三妙見 但馬妙見

妙見信仰の総本山 妙見山 日光院

御本尊 妙見大菩薩

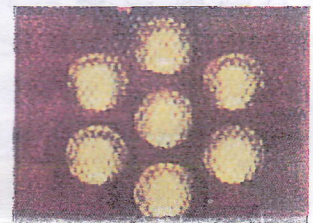
開運厄除け妙見護摩祈禱のお寺

山名宗全公祈願所

近畿楽寿観音霊場
宝の道七福神霊場
但馬七福弁財天霊場
妙見山資料宝物館
妙見杉と星のお寺



日光院の七曜紋



「妙見」について

妙見とは、妙見大菩薩の事です。妙見大菩薩とは真言密教の仏様であり北斗七星を象徴とした天空の中心をつかさどる仏様として古くから信仰されてきました。つまり妙見大菩薩の信仰を妙見信仰といいます。全国各地に妙見という地名がありますが、それは妙見信仰が盛んであった事に由来しているのです。道教では紫微大帝、天台宗では尊星王、神道では鎮宅霊符尊星などが妙見大菩薩と団体としてお祀りされています。古くは石原山といわれていたこの地も妙見信仰が盛んとなり、いつの頃からか妙見山といわれる様になりました。古より妙見大菩薩を本尊としている日光院をおいてほかに但馬妙見はありません。但馬妙見=日光院なのです。

妙見大菩薩と七曜の紋

妙見大菩薩は北斗七星と団体でありますから、その象徴として七曜の紋が用いられています。それが但馬妙見である日光院の七曜紋なのです。

妙見大菩薩=北斗七星=七曜紋なのです。節分に全国のお寺で行われております「星祭り」という法要では北斗曼陀羅、つまり妙見大菩薩を中心に息災を祈願する修法なのです。



昭和29年の八鹿町観光協会発行の
地図より一部拡大したものです。

但馬妙見 日光院縁起

往古は当院を石原山帝釈寺日光院と称しましたが、明治時代に山号を改め寺号を撤して妙見山日光院となりました。石原山とは、現寺域に対する総称で、いわゆる妙見山（石原）とは全て日光院の旧境内であります。

当院は飛鳥時代敏達天皇(572年)のころ、日光慶重の御開創に始まります。第二世慶覚、第三世覚重を経て、第四世重明の時代に本尊妙見堂及び、本地仏薬師瑠璃光如来を本尊とする薬師堂がこの地（石原）に建立されました。

我が国において妙見大菩薩の霊場は数多くありますが、は霊符縁起によりますと、下総国の相馬妙見、肥後国の八代妙見と共に但馬国の石原妙見（略して但馬妙見という）は、日本三妙見の一つとされています。中国近畿地方一帯の妙見尊を奉祭する寺社の総本家として多くの

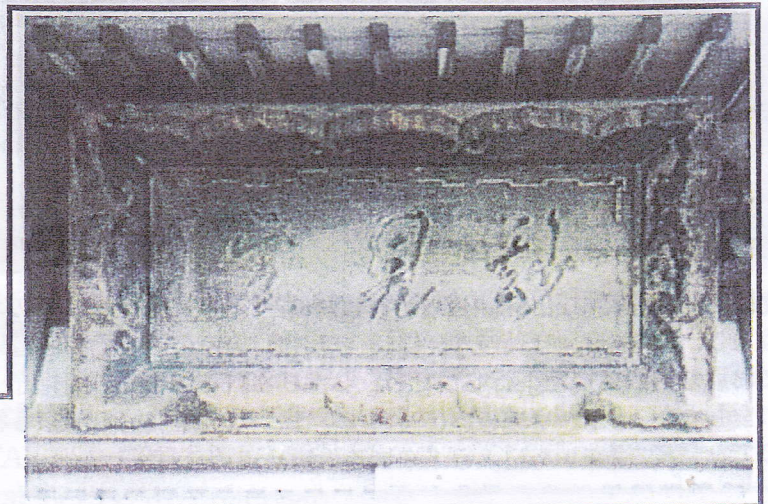
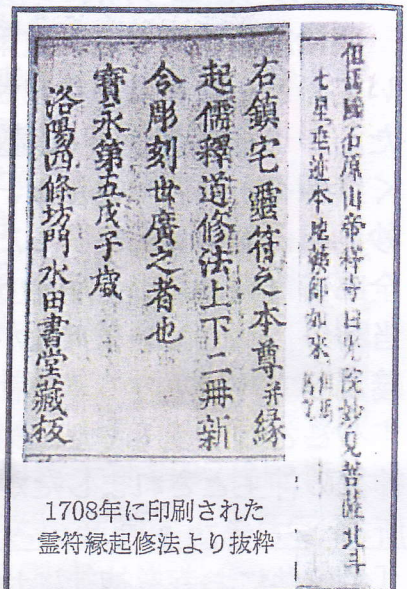


人々の信仰を集めていました。鎌倉時代以降、妙見大菩薩に対して特に武門将士の信仰が盛んとなり「日光院文書」（県指定）として伝わる鎌倉室町時代の古文書百数十通のなか、文安二年(1445年)の山名宗全公、山名四天王等の祈願状、寄進状等からも明らかのように、武家をはじめとする諸国信者の寄進が相次ぎ、因幡、播州、但馬、丹後、丹波の五郡にわたって荘園を有し一千町歩の妙見山といわれ成就院をはじめとする塔中寺院は十坊を数えました。

但馬妙見信仰は遠く大陸にまで及び、明朝の嘉靖年間（1530年）には菊伏英という篤信者が唐画妙見尊を日光院に寄進しています。まさに一山隆盛を極めたのです。しかしながら、羽柴秀吉の山陰攻めの兵火にあい妙見尊本殿、薬師本堂のみを残し灰燼と帰して寺門一時衰微しましたが、高野山釈迦文院の高僧朝遍阿闍梨が、当院第三十五世を兼務し復興に尽力され、ついで其の弟子の第三十六世快遍阿闍梨をして大いに興隆されました。寛永九年(1632年)には奥の院に妙見大菩薩を奉持して登り日光院を妙見山の山腹に移転復興されました。すなわち今の名草神社です。旧域には成就院のみを復興して旧伽藍域の経営にあたられました。そして慶安元年（1648年）には徳川三代将軍家光公より御朱印地三十石を賜わりました。まさに旭日昇天の盛運をむかえたのです。後述しますが、妙見の三重塔は寛文年間、この快遍阿闍梨のご努力によって、出雲大社から日光院に移転建立されました。また慈性法親王は「妙見宮」と題する巨額を日光院に寄進されました。これは妙見大菩薩の霊場である日光院を妙見宮と称したためです。

この額は、現在も日光院の拝殿に掲げてあります。全国の妙見信仰霊場も同じように妙見宮といわれていました。このように徳川時代には雄大な妙見全山を伽藍とする山陰随一の名刹となりました。（妙見宮、妙見社とは日光院なのです）

日光院の拝殿（護摩堂）に掲げてある慈性法親王御寄進の「妙見宮」の巨額



但馬妙見と明治の廃仏毀釈

明治維新政府の宗教政策、神仏分離令（廃仏毀釈）ほど日本人の精神や文化を切り裂いてしまった事はありません。そして廃仏毀釈の嵐がここ但馬妙見にも吹き荒れました。つまり妙見信仰（仏教）の否定です。政府は敢えて本尊妙見大菩薩を妙見信仰とは全く無縁の名草彦命と称し、日光院を名草神社としようとしたのですが、当山は政府に対し妙見信仰の本質を抗弁したため、不法にも明治5年に上地処分を命ぜられ、妙見山寺有林全部を官没され、翌明治6年2月には妙見宮を名草神社と改称させられました。つまり当初は日光院に名草神社が同居する事が許され、（実際にはお寺であるが、書類上の名義として初めて「名草神社」が誕生した）また住職と同一世帯のものが神主として奉務することになっており、第四十七世弘応上人の親族である北垣伊佐美をもって初代名草神社の神主とされましたが、明治9年7月8日には豊岡縣から遂に「寺号を廃し、同寺が所有してきた不動産のみを神社に明け渡すこと」との布達が発せられました。つまり「名実共にお寺を神社にせよ」との命令でした。まさに但馬妙見信仰にとって最大の危機をむかえたのです。この時、但馬妙見を守るために、九鹿村から奥の小佐谷中の人々数百人が午前5時に山上に集まり、妙見七尊体尊像を始め、全ての仏像、教典、法具、蔵書等、寺宝を護持し、鐘楼以外の建物のみを山上に残し、元の日光院が寛永年間まであった山麓の石原に降り末寺成就院と合流しました。直ちに当院は、政府に対して行政訴訟を起こしました。そして明治39年、奇しくも妙見尊の縁日に日光院全面勝訴にて、前記山林は全て寺有に復帰しました。つまり、「妙見宮、妙見社とは日光院の事である」という事実を根拠に但馬（石原）妙見信仰の歴史が司法によって証明されたのです。（「兵庫県史」平成10年兵庫県発行、「但馬史巻五」宿南保氏著書昭和54年のじぎく文庫発行、「但馬妙見」昭和31年八鹿町観光協会発行、等参照）ここに1400有余年の歴史を有する日光院、そして但馬妙見信仰は、妙見大菩薩のご利益と厚い信仰によって廃仏毀釈という困難を乗り越え、妙見信仰の法灯が護られたのです。そして、今日の日光院に至るのです。寛永九年から明治九年（245年間）までの日光院は、妙見大菩薩（北斗七星）である七曜紋を残したまま県指定重文、また三重塔は国指定重文として共に、名草神社として姿をとどめています。三重塔をはじめ、真っ黒に焦げた天井の割拝殿（護摩堂）や、本殿の極彩色の装飾など、密教寺院建築の特徴を見事に伝える建物が現存し守られているという事実は、かの廃仏毀釈によって全国の多くの寺院が礎石も無いほど破壊された事実を考えると、有り難い事なのかも知れません。そして、いつまでも元の日光院を大切に保存していただきたいと願っております。



日光院の地蔵堂には50体ものお地蔵様がお祀りされています。このお地蔵様はここ（成就院）から日光院（現名草神社）までの五十丁の参道に一丁毎にお祀りされていた丁石地蔵です。お参りされる方を長い間見守って来られましたが、明治の廃仏毀釈により妙見様がこの地に降りて来られましたので、信者さんによって全てこの地に集められました。

が礎石も無いほど破壊された事実を考えると、有り難い事なのかも知れません。そして、いつまでも元の日光院を大切に保存していただきたいと願っております。



おたすけ地蔵さま

「日光院の妙見杉」と「出雲大社の三重塔」

日光院が隆盛をきわめていた江戸時代、出雲大社では神仏習合から唯一神道に復帰する時期を迎えました。いわゆる寛文の御造営です。神殿のご用材を全国各地に探し求めましたところ、日光院の妙見杉に白羽の矢がたちました。第三十六世快遍阿闍梨は「出雲大社のためならご本尊妙見大菩薩もお喜びになるでしょう」と快く引き受けました。同時に出雲大社の境内にあった三重塔を取り壊す計画を知り、「日光院にも塔がありましたが無くなりました。仏教にとっては大変重要なものですので是非ともお譲り頂きたい」と申し出たところ、逆に快くお譲りいただいたのであります。これらの経緯は、出雲大社



所蔵の「寛文御造営日記」に詳しく記録されております。また出雲大社第82代国造の千家尊統氏著書の「出雲大社」（昭和43年：出雲大社編集・学生社発行）によりますと『・・すなわち三重塔は但馬の妙見山日光院に移され今は国宝となり・・出雲大社境内から一切の仏教的色彩を除去した。云々』と記載されています。三重塔の本尊であった虚空蔵菩薩は、現在日光院にて大切に祀られております。

(以上、宗教学的、歴史学的、古文書その他文献的事実に基づき但馬妙見の概略を示しました。)

妙見大菩薩の本誓と霊験

「諸の国土人民を救済せんと大誓願を發し種々方便の時七星と顯れ或いは親友と化して人々を善道に導き常に一千七百の大眷属を遣わし国土の災患を除き人民の諸願を満ぜしめ給う」とあります。戦国時代は戦勝祈念、農業には五穀豊穡と、いつの時代にも開運厄除けの霊験あらたかな仏様です。

御真言 おんまか しりえい じりべい そわか

みどころ

◎本尊妙見大菩薩（秘仏）本殿、及び拝殿（妙見宮）：やはり真北を向いております。

◎本地仏薬師瑠璃光如来：薬師堂

◎宝の道七福神第5番札所：毘沙門天（薬師堂内）

◎但馬七福弁財天第16番札所：招福弁財天

◎近畿楽寿観音：封じ観音

◎おたすけ地蔵：当院第五十三世光裕上人が、おたすけ地蔵として祀られております。

◎妙見資料宝物館：化石など資料展示

◎樹齢600年の大銀杏をはじめ、秋の紅葉は実に見事です。

但馬妙見 日光院 年中行事 (縁日 18日)

元旦参賀 初詣 お屠蘇、お供物

2月3日 節分 星祭り 息災護摩法要厳修

5月5日 春の妙見まつり 大般若転読 護摩法要厳修 開運餅まき（甘茶接待） 露店

◎7月18日 夏の妙見まつり 万灯会（無数のろうそくが境内を幻想的に照らします。） 露店
紙芝居 チャリティーバザー 20時より護摩法要厳修（団子接待）

12月31日 除夜の鐘 年越し元旦護摩法要厳修

* 特別護摩祈願のお申し込み：随時お申し込み受け付けておりますが、直接祈願希望されます場合は、事前にお電話でお申し込みください。

開運厄除け、五穀豊穡、家内安全、商売繁盛、事業隆昌、心願成就、無病息災、当病平癒、安産祈願、交通安全、合格祈願、旅行安全、水子供養、その他、車祈祷、上棟式、地鎮祭等



虚空蔵菩薩

アクセス

◎JR山陰線「八鹿駅」より約8キロ

全但バス石原線終点「石原」下車 徒歩5分 又は、タクシー 約15分

◎国道9号線八鹿市街「日光院・名草神社」方向に約7キロ 約10分

〒667-0051 兵庫県養父郡八鹿町石原450番地 妙見山 日光院

TEL 079-662-2817 FAX 079-662-8207 E-mail nikkou7@fureai-net.tv

URL <http://www.fureai-net.tv/myoukensan>